

* 仙台市衛生研究所ホームページ:

<https://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html>

今回は 2018年における仙台市の 感染症発生状況についての速報です

感染症発生動向調査とは、感染症の予防と蔓延防止に役立てるため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下、感染症法)に基づき、定められた感染症について、診断した医師からの報告をもとに、感染症の発生状況を調査し、分析・公表するものです。

感染症法では、対象となる感染症を感染力や罹患した場合の重篤性等により一類～五類、新型インフルエンザ等感染症に類型化し、診断した医師に届出を行うよう規定しています。なお、一類～四類感染症、五類感染症の一部、新型インフルエンザ等感染症は**全数報告対象感染症**^{※1}に分類されており、それ以外の五類感染症は**定点把握対象感染症**^{※2}に分類されています。

仙台市衛生研究所では、医療機関から保健所を通して報告のあった感染症情報のとりまとめを行い、週1回(対象疾患によっては月1回)、**仙台市感染症発生動向調査情報**としてウェブサイトなどで公開しています。

今回は2018年における仙台市の感染症発生状況についてまとめました。なお、本データは速報値です。追加報告等により修正される可能性があります。

※1 全数報告対象感染症: 診断したすべての医師に報告が義務付けられている感染症。

※2 定点把握対象感染症: あらかじめ定点として指定された医療機関に報告が義務付けられている感染症。決められた期間中(1週間または1ヵ月間)に診断された患者数を報告する。

トピックス

風しんの報告数が急増しています

風しんは、風しんウイルスによって引き起こされる急性の発疹性感染症です。潜伏期間は2～3週間(平均16～18日)で、主な症状として発疹、発熱、リンパ節の腫れが認められます。

2018年は国内で2,917例(男性2,364例、女性553例)の報告があり、2008年の全数届出開始以降では、2013年に次いで2番目に多く、2017年1年間の報告数(93例)の31倍の報告数となりました。

地域別では、東京都(945例)、神奈川県(402例)、千葉県(383例)、埼玉県(191例)と首都圏での報告が多く、患者の8割以上が男性でした。特に、男性患者は30～40代が多く、女性患者は妊娠出産年齢である20～30代に多くなっていました。

風しんの予防には予防接種が最も有効な方法です。詳しい情報は、仙台市ホームページや、仙台市衛生研究所情報広場(第46号 2018年11月発行)に掲載していますので、ぜひご覧ください。



1. 全数報告対象感染症

2018年に診断・報告された全数報告対象感染症を表1にまとめました。

表1 2018年全数報告対象感染症発生状況(仙台市)

類	疾病名	報告数	推定感染地域
二類	結核	214	国内160例, インドネシア1例, ベトナム2例, ネパール3例, フィリピン1例, 不明47例
三類	腸管出血性大腸菌感染症	28	国内22例, 不明6例
四類	E型肝炎	3	国内3例
	A型肝炎	5	国内4例, 不明1例
	つつが虫病	2	国内2例
	デング熱	1	タイ1例
	レジオネラ症	18	国内18例
五類	アメーバ赤痢	11	国内8例, 国内/国外(台湾)1例, 不明2例
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	4	国内4例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	17	国内17例
	急性弛緩性麻痺	1	不明1例
	クリプトスポリジウム症	1	国内1例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	(届出事項対象外)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5	国内5例
	後天性免疫不全症候群	10	国内8例, 中国2例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4	国内4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	30	国内28例, 国内/国外(韓国)1例, 不明1例
	水痘(入院例)	3	国内3例
	梅毒	58	国内53例, 不明5例
	破傷風	3	国内3例
	百日咳	21	国内19例, 国外(中国)1例, 不明1例
	風しん	7	国内6例, 不明1例
麻しん	0		

- ◇ 2018年は2017年に引き続き**梅毒**が増加し、過去10年間で最多(図1)。
- ◇ **性的接触**が感染原因として疑われるものは、73件(A型肝炎1件, アメーバ赤痢4件, ウイルス性肝炎3件, 後天性免疫不全症候群9件, 梅毒56件)。
- ◇ **経口感染**が疑われるものは、20件(腸管出血性大腸菌感染症13件, E型肝炎2件, A型肝炎3件, アメーバ赤痢2件)。
- ◇ **動物・蚊・昆虫等からの感染**が疑われるものは、2件(つつが虫病1件, デング熱1件)。

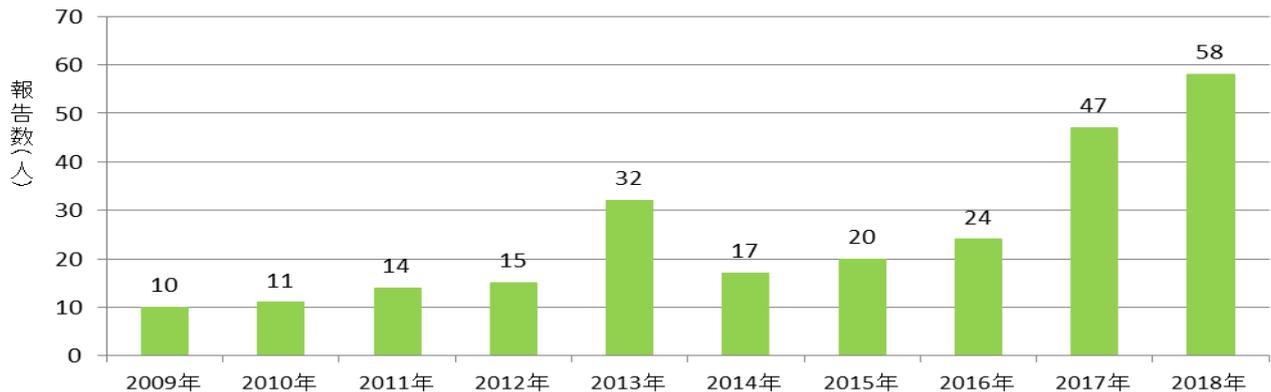


図1 梅毒の報告数推移(仙台市)

2. 定点報告対象感染症

2018年に診断・報告された定点報告対象感染症について主なものを以下にまとめました。

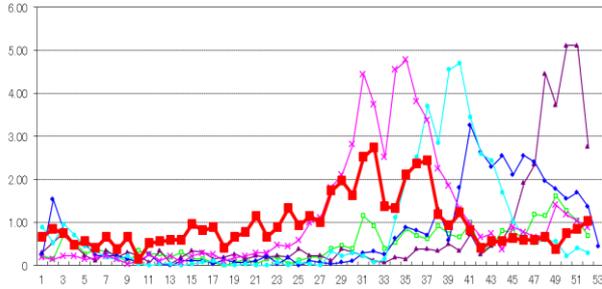
【2018年 仙台市内定点医療機関の内訳】

小児科定点	27
インフルエンザ定点	44 (内科定点17及び小児科定点27)
眼科定点	6
性感染症定点	8 (産婦人科, 婦人科, 泌尿器科, 皮膚科等)
基幹定点	5 (病床数300人以上の小児科, 内科, 外科を含む病院)

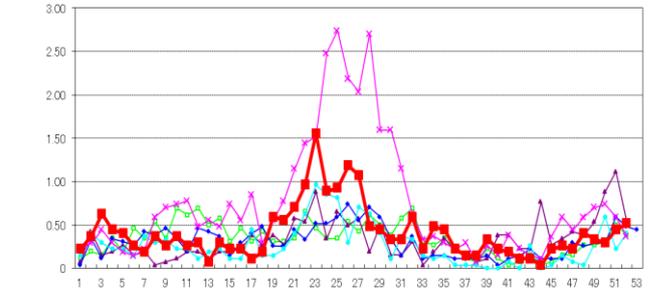
(1) 週報告対象感染症

* 縦軸: 定点当たり報告数, 横軸: 診断週

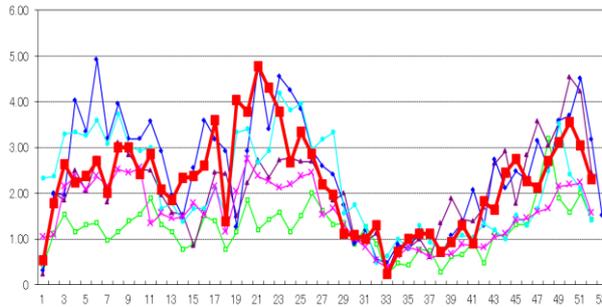
RSウイルス感染症



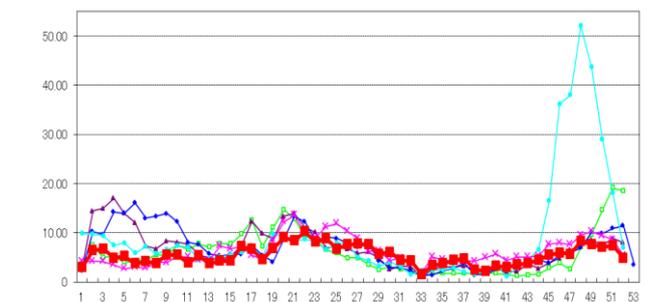
咽頭結膜熱



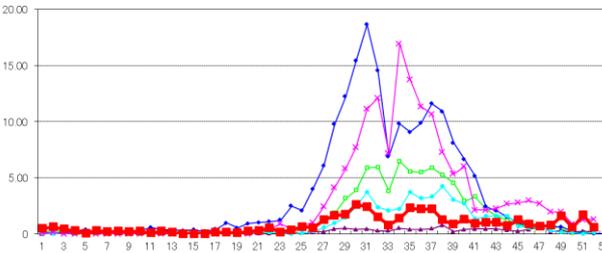
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



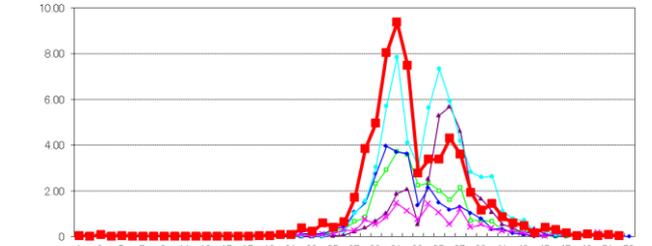
感染性胃腸炎(小児科定点)



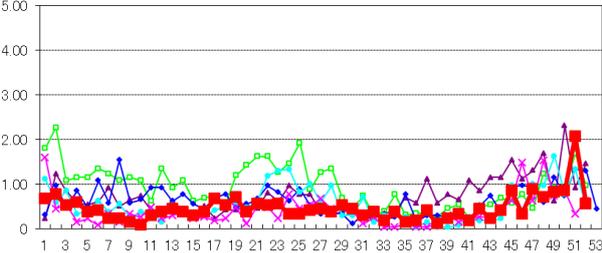
手足口病



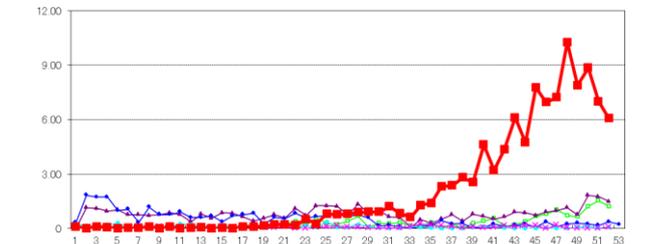
ヘルパンギーナ



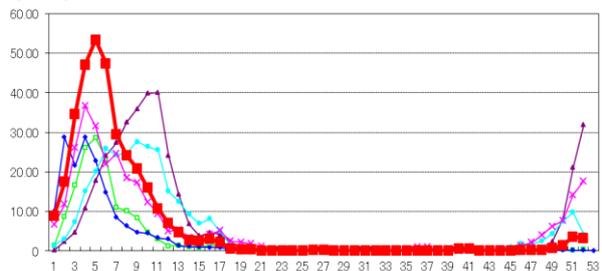
水痘



伝染性紅斑



インフルエンザ



- ◇ インフルエンザが年明けに大流行。
- ◇ ヘルパンギーナが夏に流行
- ◇ 伝染性紅斑が9月以降に大流行。
- ◇ 手足口病が例年より報告が少ない。

図2 主な週報告対象感染症の発生状況(仙台市, 2013~2018年)

(2) 月報告対象感染症

* 縦軸:報告数(人), 横軸:年齢

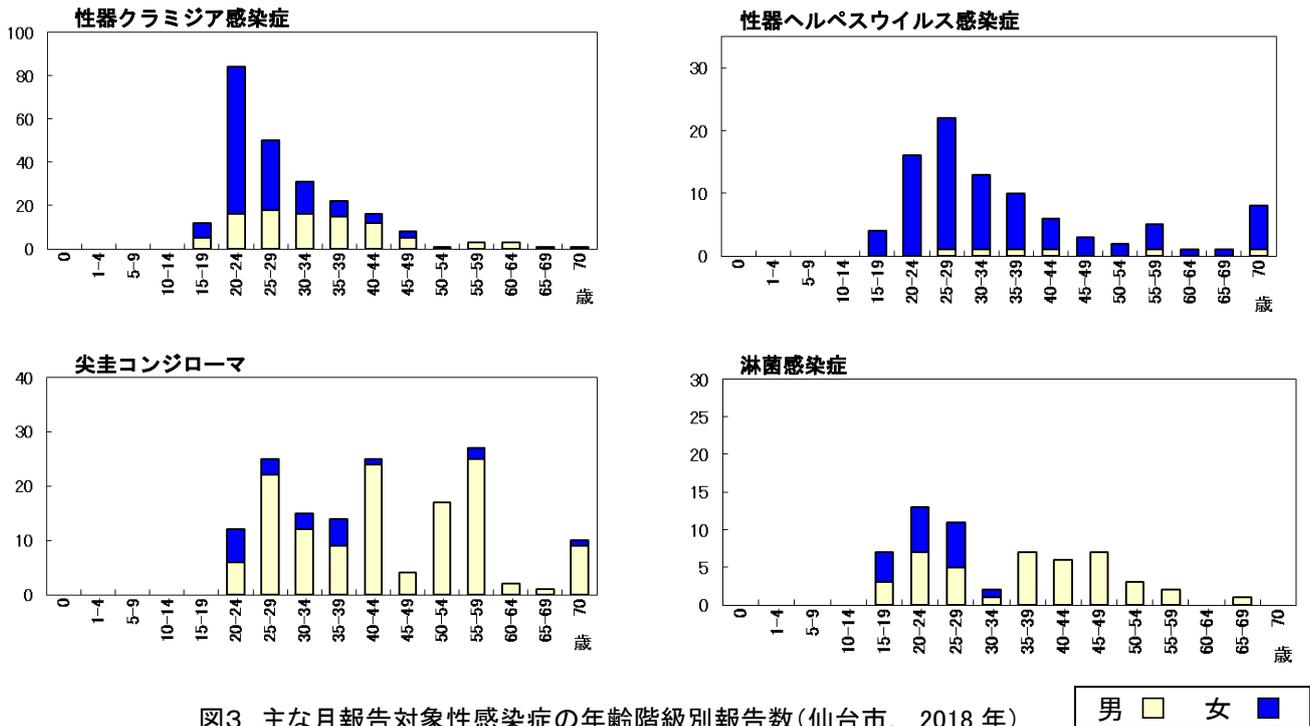


図3 主な月報告対象感染症の年齢階級別報告数(仙台市, 2018年)

男 □ 女 ■

- ◇ 性器クラミジア感染症, 性器ヘルペスウイルス感染症, 淋菌感染症は 20~30 代の年齢層が多い傾向。
- ◇ 性器クラミジア感染症及び性器ヘルペスウイルス感染症は女性が多い傾向。

3. 病原体情報の収集

仙台市衛生研究所では, 市内の医療機関(感染症法に基づくインフルエンザ病原体の指定提出機関や, 感染症発生動向調査事業による病原体定点)にて採取された検体の検査を実施し, その結果を国立感染症研究所に報告しています。

インフルエンザについては, 2018 年は 113 検体の提供があり, うち 102 検体からインフルエンザウイルスが分離・同定されました。2017/18 シーズン(第 36 週:2017 年 9 月 9 日まで)は A 香港(H3)型が半数以上を占め, 2018/19 シーズン(第 37 週:2018 年 9 月 10 日から)は, AH1pdm09 型と A 香港(H3)型が同数で分離・同定されました。

なお, 分離したインフルエンザウイルスについては, 抗原性状の変化や抗インフルエンザ薬として広く使われているオセルタミビル/ペラミビル耐性の指標となる遺伝子の検索が行われ, また, 感染症の流行状況の把握やインフルエンザワクチンの株選定の際の参考情報として活用されています。

* 縦軸:検出数, 横軸:医療機関での採取週

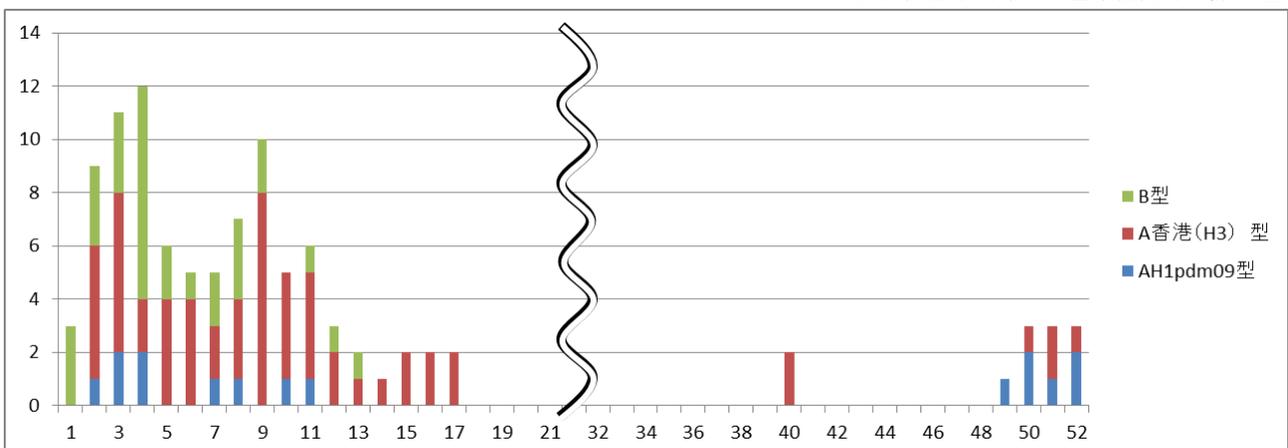


図4 インフルエンザウイルス検出状況(仙台市, 2018年)